



# MESSAGE NOTES

## 福音を世に

使徒の働き 8 章

ロイド・フラハティ

### 1. 散らされたが、黙することはなかった — 使徒の働き 8:1-4

1 サウロは、ステパノを殺すことに賛成していた。その日、エルサレムの教会に対する激しい迫害が起こり、使徒たち以外はみな、ユダヤとサマリアの諸地方に散らされた。2 敬虔な人たちはステパノを葬り、彼のためにたいへん悲しんだ。3 サウロは家から家に押し入って、教会を荒らし、男も女も引きずり出して、牢に入れた。4 散らされた人たちは、みことばの福音を伝えながら巡り歩いた。

私たちの人生において、困難や思いもしなかった変化は、神様が私たちを用いる機会となることがあります。困難な時に神様を信頼すると、私たちが想像もしなかったような方法で神様は私たちを通して他の人に働きかけることができるのです。

### 2. 福音は文化を超える — 使徒の働き 11:19-21

19 さて、ステパノのことから起こった迫害により散らされた人々は、フェニキア、キプロス、アンティオキアまで進んで行ったが、ユダヤ人以外の人には、だれにもみことばを語らなかった。20 ところが、彼らの中にキプロス人とクレネ人が何人かいて、アンティオキアに来ると、ギリシア語を話す人たちにも語りかけ、主イエスの福音を宣べ伝えた。21 そして、主の御手が彼らとともにあったので、大勢の人が信じて主に立ち返った。

最初、信者達は同胞のユダヤ人にだけ福音を延べ伝えていましたが、アンティオキアでは、異なる文化圏の人たちにも福音を伝え始めました。

### 3. 初めてキリスト者（クリスチャン）と呼ばれた — 使徒の働き 11:22-26

22 この知らせがエルサレムにある教会の耳に入ったので、彼らはバルナバをアンティオキアに遣わした。23 バルナバはそこに到着し、神の恵みを見て喜んだ。そして、心を強く保っていつも主にとどまっているようにと、皆を励ました。24 彼は立派な人物で、聖霊と信仰に満ちている人であった。こうして、大勢の人たちが主に導かれた。25 それから、バルナバはサウロを捜しにタルソに行き、26 彼を見つけて、アンティオキアに連れて来た。彼らは、まる一年の間教会に集い、大勢の人たちを教えた。弟子たちは、アンティオキアで初めて、キリスト者と呼ばれるようになった。

アンティオキアにおいて信者達は初めて「キリスト者（クリスチャン）」と呼ばれるようになりました。・・・それは彼らの背景によるのではなく、彼らがイエス様中心に生きていたからです。キリストに従う者として、私たちのアイデンティティは私たちがどこの出身かではなく、誰に従っているか、なのです。

### まとめ:

神様が散らされた人々を用いて福音を広げられたように、神様は、困難の中でも、私たちの人生を用いてご自身の光を輝かせ、他の人々を神様の家族へと引き寄せることができます。あらゆる国の人々を歓迎する時、私たちは神様の心を映し出すのです。